



# 高水地協ニュース

連 合 長 野  
高水地域協議会

○ 発行責任者 荻原 公和  
○ 編集責任者 岩本 淳一

〒383-0025 中野市三好町 1-1-19 Tel.0269-23-0505 Fax.0269-38-0575

『働く者の連帯で“ゆとり・豊かさ・公正な社会”を実現し、自由で平和な世界をつくろう』をスローガンに、両会場へ 1,700 名が参加

第 87 回高水地区（北信会場・須高会場）メーデーを開催しました。



中野市民会館に集まった参加者（北信地区メーデー）



百々川緑地公園に集まった参加者（須高地区メーデー）

高水地協の第 87 回地区メーデーは、例年同様に北信と須高の 2 会場において、それぞれの地連が主体者となり、地域の労働団体・単組へ参加を呼び掛けて盛大かつ有意義に開催しました。

## □ 北信地区メーデー

北信地区メーデーは、昨年の飯山市開催から会場を中野市に移し、中野市民会館において 28 団体単組・829 名の参加者により開催しました。

実行委員会役員は午前 7 時 30 分に会場へ集合して準備を整え、午前 8 時 30 分より受付を開始し午前 9 時からメーデー集会を挙行了しました。

最初に全員で「晴れた五月」を合唱し、戸島裕司実行委員長（地連会長・中野市職員労組）よりメーデーの歴史や労働者を取り巻く現況に触れつつ、「未組織

労働者にもきちんと目を向けた地域運動を展開しよう」と呼び掛けました。そして、会場に駆け付けていただいた篠原孝衆議院議員や小林東一郎県議会議員、高山恒夫飯山市議会議員からは、

総じて「安倍政権の暴走政治を止めなければならない。そのためにはまず、今夏の参院選挙で我々の代表となる人物の必勝に全力を尽くして闘おう」との挨拶をいただきました。その後、メーデースローガンの確認およびメーデー宣言・暮らしの底上げ実現に向けた特別決議を採択し集会を閉じました。集会を終えて午前 10 時よりデモ行進に移り、銀座通りから中町上交差点を左折、若松町交差点から中野駅前、市役所南交差点を左折し会場に戻る約 40 分のコースを、街宣とシュプレヒコールを行いながら 4 列縦隊で行進しました。

メイン会場の第 2 部として、最初に中野市消防



挨拶する戸島実行委員長



【ご来賓各位】左側より、衆議院議員篠原孝様、県議会議員小林東一郎様、飯山市議会議員高山恒夫様、県北信労政事務所長松下隆志様、労働金庫中野支店長垣崎賢一様、全労済長野支所長補佐原田高教様

音楽隊の演奏を觀賞し、JR 飯山駅・金沢駅間の新幹線往復ペアチケットや折り畳み自転車などが当たる「お楽しみ抽選会」を行いました。なお、例年通り各団体・単組に景品提供をお願いしたところ、143 点（16 団体・単組）の景品提供がありました。各組織のご対応に心より感謝致します。

その後、ブラカード・デコレーション行進コン

クールの発表と表彰を行い、最後に戸島実行委員長の発声により「団結がんばろう」を三唱して約 3 時間のメーデーが無事に終了しました。

開催日：5 月 1 日（日）午前 9 時～

集会場：中野市民会館ホール

参加者：28 団体単組・829 名

※うち、北信地連は 21 単組・772 名

## メーデー宣言



力強く中野市内を行進する梯団

本日、私たちはここに第 87 回北信地区メーデーを開催した。4 月 14 日以降、熊本県で発生した巨大地震は、継続的かつ広範囲に甚大な損害を与えた。一連の地震災害で尊い命を失われた方々に心よりご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々、避難を余儀なくされた方々にお見舞いを申し上げる。

東日本大震災と未曾有の大津波災害、そして翌朝に発生した栄村を中心とする長野県北部の大震災から 5 年が経過したが、今もなお多くの方々が心の苦しみを抱え、不自由な生活を強いられており、こうした被災地の復興・再生を引き続き全力で支えていくとともに、震災を決して風化させないよう、全国の仲間と連携した実効ある取り組みを継続していく。

メーデーは労働者の国際連帯の日である。私たちは国際労働組合総連合（ITUC）と連携し、戦争や紛争、そしてテロなどの撲滅はもちろん、世界平和を脅かす要因の貧困や飢餓、環境破壊、人権侵害の撲滅に立ち向かい、すべての人々にディーセント・ワークを実現していかなければならない。そのためにも、本年開催される G7 伊勢志摩サミットでは、世界の労働組合の声を結集し、「不平等の是正」「人への投資とディーセント・ワークの創出」「ジェンダー平等」「雇用に配慮した循環型社会へ

の移行」を強く訴えていく。

一方、国内においては、働き方や性別、地域の違いなどによる格差や低所得、将来不安を原因とする長期デフレからの脱却が喫緊の課題である。これらの課題を克服し、経済の好循環を実現させるために 2016 春季生活闘争を通じたすべての働く者の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現をはかる。加えて雇用、労働、福祉などの政策・制度の実現を通じた雇用の安定と質の向上や子育て、医療、介護などの社会的セーフティネットの拡大・強化による将来不安の解消、さらには労働組合づくりを通じた集团的労使関係の拡大を進めなければならない。

今こそ、暮らしの底上げが必要である。パートや派遣、有期などで働く非正規労働者や中小・地場企業で働く労働者、未組織労働者と手を携え、すべての働く者・生活者を代表し、志を同じくする関係団体や N P O ・ N G O との連携を深めながら「働くことを軸とする安心社会」をつくろう！

2016 年 5 月 1 日

第 87 回北信地区メーデー集会



上：中野市消防音楽隊の演奏風景

下：カラフルな女装で行進する参加者

## 暮らしの底上げ実現に向けた特別決議

『雇用・生活の安定と明日への希望』——、これこそが社会の持続可能性を実現するカギである。雇用労働者の 7 割を占める中小企業で働く人々や約 2,000 万人の非正規雇用で働く人々をはじめ、すべての働く者の「底上げ・底支え」「格差是正」を確実に進めることが不可欠であり、子育て・医療・介護などの将来不安も払拭されなければならない。当然のことながら、雇用と生活に重大な影響を及ぼす労働者保護ルールの変更は、これに逆行するものであり断じて認められない。私たちがめざすものは「働くことを軸とする安心社会」である。それは、誰もが公正な労働条件のもとで多様な働き方を通じて社会に参加でき、互いに社会的・経済的な自立を支え合い、自己実現に挑戦できる活力あふれる参加型の社会である。その実現のため、私たちは以下に取り組む。

一、将来世代への責任を果たし、真面目に働き生活を営む者が報われる、暮らしの底上げにつながる「政策の実現」

なお、本メーデー集会に際して、中野市長池田茂様、飯山市長足立正則様、山ノ内町長竹節義孝様、木島平村長日臺正博様、野沢温泉村長富井俊雄様、栄村長島田茂樹様より激励のメッセージが届いています。

### □ 須高地区メーデー

須高地区メーデー（第 87 回メーデー須高地区大会）は、会場を昨年のメセナホールから百々川緑地公園に移し、メーデー集会に 18 団体単組・900 名（うち、デモ行進には 13 団体単組・615 名）が参加者して開催しました。

須高地区メーデーは、二つのグループに分けたデモ行進から始まります。一方のグループが須坂市役所前に、もう一方のグループは墨坂神社（芝宮）に集合し、それぞれが午前 9 時に現地を出発、実行委員会で決めたコースを街宣やシュプレヒコールしながら 4 連縦隊でデモ行進し、40～50 分ほどで集会場の百々川緑地公園に到着しました。会場では、参加単組より 4 つの模擬店を出していただき飲物やつまみなどを販売しました。

午前 10 時からメーデー集会を開催し、最初に各団体・単組より選抜されたコーラス隊の歌声にあわせて全員でメーデー歌を合唱しました。そして、荻原公和実行委員長（地連会長・長野電鉄労組）よりメーデーの意義や労働者を取り巻く現況に触れつつ、「地域に根差した労働運動を進めよう」と挨拶しました。

来賓は 16 名の方にお越しいただき、代表して須坂市長三木正夫様、衆議院議員篠原孝様、日本共産党北部地区委員会唐沢ちあき様、社民党須高総支部竹内宏美様の 4 名に連帯のご挨拶をいただきました。

その後、メーデースローガンの確認およびメーデー

一、誰もが誇りを持って働き続けられる良質な雇用と労働条件の確保、安全・安心に暮らすための「社会的セーフティネットの拡充」

一、立憲主義と民主主義に立脚し、基本的人権、平和主義などの普遍的価値を尊重する「健全で緊張感ある政治」

本メーデーを契機に、連合が提唱する「クラシノソコアゲ応援団！ 2016 R E N G O キャンペーン」を通じて、一人ひとりが、職場・家庭・地域で理解と共感を呼び起こす取り組みをより一層展開し、社会的うねりを巻き起こしていく。そのうえで、働く者に寄り添う政治の実現をめざすため、本年 7 月の参議院議員選挙において長野県区では連合長野が推薦する候補者の必勝、そして各産別の組織内比例区候補者全員の勝利に向け、総力を挙げて取り組む。

以上、決議する。

2016 年 5 月 1 日

第 87 回北信地区メーデー集会



連帯挨拶する篠原孝衆議院議員

宣言および特別決議を採択して集会を閉会し、アトラクションに移りました。

アトラクションでは、商品券や QUO カードが当たるお楽しみ抽選会を行い、続いてプラカード行進コンクールの発表と表彰を行いました。最後に荻原実行委員長の発声により「団結がんばろう」を三唱して約 3 時間のメーデーが無事に終了しました。

開催日：5 月 1 日（日）午前 10 時～集会

集会場：百々川緑地公園

参加者：18 団体単組・900 名（集会時）

※うち、須高地連は 11 単組・673 名

## 【ご来賓各位】

須坂市長	三木 正夫 様
衆議院議員	篠原 孝 様
須坂市議会議員	宮坂 成一 様
須坂市議会議員	岩田 修二 様
須坂市議会議員	久保田克彦 様
須坂市議会議員	竹内 勉 様
須坂市議会議員	荒井 敏 様
小布施町議会議員	中村 雅代 様

小布施町議会議員	小林 正子 様
高山村議会議員	山崎 秀治 様
高山村議会議員	畔上 孝一 様
社民党須高総支部	竹内 宏美 様
日本共産党北部地区委員会	唐沢ちあき 様
北信労政事務所次長	大草 登 様
労働金庫須坂支店長	高山 久 様
全労済長野支所長	武井 秀樹 様

## メーデー宣言

安倍政権の暴走が止まらない。昨年 9 月 19 日参議院で「戦争する国づくり」をめざし、「安保関連法案（戦争法）」を強行可決し、「世界で企業が一番活動しやすい国づくり」のため、労働者派遣法の改悪を強行、さらに残業代ゼロなどの労働基準法の改悪、解雇の金銭解決など、さらなる労働法制改悪を狙っている。

東日本大震災・長野県北部地震から 5 年が経過した。また、4 月 14 日には熊本地震が発生した。今もなお、多くの方々が心の苦しみを抱え、不自由な生活を強いられている。私たちは、被災地の復興・再生を引き続き全力で支えていくとともに、震災を決して風化させないよう、被災地はもとより、全国の仲間と連携した取り組みを継続・強化していく。

生活環境においては、アベノミクスにより大企業と一部富裕層のみに恩恵があたえられる一方、働き方や性別、地域の違いなどによる格差や生活困窮者が

拡大し、雇用労働者の 7 割を占める中小企業で働く人々や、約 2,000 万人の非正規雇用で働く人々は将来に大きな不安を抱え生活している。

本日、私たちは第 87 回須高地区メーデーを開催し、「働くことを軸とする安心社会」をめざし、安倍政権の暴走をストップさせ、「戦争法廃止」、立憲主義・民主主義を取り戻し、残業代ゼロなど労働法制の改悪を止め、賃金引き上げ・底上げで内需拡大を実現し、労働者・国民の生活を改善していくことを確認した。私たち力の結集で、すべての働く者に元気をみなぎらせ、須高地域のすべての家庭や職場で笑顔を輝かせていくことを高らかに宣言する！ 第 87 回メーデー万歳！

2016 年 5 月 1 日

第 87 回メーデー須高地区大会

## 「戦争法」を廃止し、「戦争をする国づくり」を断固阻止する特別決議

1947 年 5 月 3 日に施行され、今年で 70 年となる日本国憲法が戦後最大の危機を迎えている。安倍政権が昨年 9 月 19 日に参議院で強行採決し、成立させた「平和安全保障法案（戦争法）」は、憲法 9 条が禁じる国際紛争解決のための武力行使を可能とするもので、憲法違反であることは明らかである。憲法解釈を 180 度覆した閣議決定に基づく違憲の立法は、内閣と国会による立憲主義の否定であり、断じて認めることはできない。

この戦争法が発動されれば、日本は海外で戦争する国になり、自衛隊は海外で殺し殺されることになる。日本自体が武力紛争の当事者となり、政府が言う「平和安全」とはまったく逆の事態を招くことになる。武

力による介入は新たな憎しみの連鎖を生み出すだけであり、テロも戦争もない平和な社会が欠かすことのできない大切なものである。9 条を持つ国として、軍事による抑止力ではなく、徹底した平和外交こそが、平和を追求する手段であり日本の進むべき道である。

平和な未来を私たちが切り拓くため、「戦争法」を廃止させ、戦争をする国づくりを断固阻止し、平和憲法を守る闘いを、一人ひとりが進めることを決議する。

2016 年 5 月 1 日

第 87 回メーデー須高地区大会

## 熊本地震義援カンパの御礼

地区メーデー 2 会場（北信・須高）において、本年 4 月 14 日に発生した熊本地方を震源とする地震で、今なお余震に苦しみながら復興に立ち向かう被災地・被災者の支援のための『熊本地震義援カンパ』を行いました。お陰様を持ちまして、

**北信地区会場：42,161 円**※実行委員会拠出金含む

## 須高地区会場：29,218 円

のカンパ金が集まりました。あわせて、連合長野では『ふれ愛資金』から 50 万円を救援カンパとして拠出されます。皆様からお寄せいただいた募金は被災された方々の支援を目的として、全国から連合本部に集約され、被災地の自治体などに寄付されます。

以上